

長の杉山道雄・岐阜大学名誉教授である。

A 5判、168ページ。定価2500円（税別）。

発行所：筑波書房（TEL：03-3267-8599）。

『地域ブランドを引き出す力』  
トータルマネジメントが田舎を変える！  
合同出版(株) 発行

合同出版(株)は、このほど、人・モノ・地域を元気にする方法を解説した『地域ブランドを引き出す力』を発売した。

2006年に制定された食育基本法。栄養バランスや健康、地域の食料利用や伝統的な食文化を学ぶことなどを定めた同法律は、国民の食生活と健康に影響を及ぼす現代の食のあり方に警笛を鳴らすものでもあった。

本書は、食総合プロデューサーや食育事業のアドバイザーとして全国を駆け回り、地域に根付いた食文化を再発見、各地の元気な姿を情報発信している著者・金丸弘美氏が、自身の活動を通じて得られた事例の中から特徴的なものを紹介するもの。取り上げている事例は、どれも農業や地域を基本としつつ、地域に根差し、地域の財産を生かし、ストーリー性をもったもの。決して流通業界の主導によって作られたものではない、真の「地域ブランド」といえるものばかりである。

各事例の紹介小見出しも、“女性の農家レストラン、年商7000万円”、“年間170万円も売れた85歳のおばあちゃんのおまんじゅう”、“10kg300円のリンゴと1杯300円のジュース”など、6次産業化に取り組もうという人に興味を抱かせるものがずらりと並ぶ。畜産では、“6次産業のトップモデル”として「伊賀モクモクファーム」を紹介。

国内で32地域のモデル事例が紹介されるほか、



イギリス、ドイツ、フランス、イタリアといった海外における「食」に関する活動や教育なども掲載され、情報満載である。

A 5判変形、208ページ。定価1400円（税別）。

発行所：合同出版(株)（TEL：03-3294-3506）。

『ぼくらはそれでも肉を食う』  
人と動物の奇妙な関係  
柏書房(株) 発行

柏書房(株)は、このほど、『ぼくらはそれでも肉を食うー人と動物の奇妙な関係ー』を出版した。

本書は、“イルカ殺しはかわいそう、でも、焼肉もマグロ丼も大好き。この矛盾、いった



いどうしたらいい？”といった本の帯が物語るように、私たち人間の動物に対するさまざまな行為を取り上げ、首尾一貫しない主張や矛盾を読者に問いかける構成となっている。

例えば、第8章では、人間が生活の中で良いネズミ（ペット）、悪いネズミ（害獣）に区分し、レッテルを貼っている。実験動物用に飼われているネズミについては、人間はデング熱撲滅のために100万匹以上を使ったといい、ネズミの道徳的地位を考えてみようと呼びかけている。

この他、闘鶏とマクドナルドのセットメニューを比較しどちらが残酷かを問い直すものや、動物との関係を性別差により解説するものなど全10章からなる。

著者は、ウェスタンカロライナ大学の心理学科教授・ハロルド・ハーツォグ氏。訳は数多くの翻訳を手掛けている山形浩生ら。

A 5判変形、368ページ。定価2400円（税別）。

発行所：柏書房(株)（TEL：03-3947-8251）。

（砺波 謙史）